

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		守谷駅東口市有地整備事業		担当課
総合計画	政策	快適に暮らせるまち		計画期間
	施策	調和の取れた市域の形成		種別
	基本事業	計画的な土地利用		市民協働
予算科目コード		01-020107-11 単独	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
当該市有地は、守谷駅まで約250mの好立地にある1.2haのまとまった土地。また、松並土地区画整理事業の進捗により成熟が進むことが予想されている。その一方、周辺には公共施設が立地していない。この状況を踏まえ、当該市有地の土地利用について検討し、施設等を整備する。	
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市民及び市が守谷駅東口市有地を有効活用できるよう、計画を策定し整備を行う。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市街化区域の有効な土地利用の促進を図る。 市街化調整区域の無秩序な開発を防ぎ、環境の保全に努める。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度 of 取組（評価、課題への対応）
基本計画を早期に策定し、利活用事業の開始に向けて計画的に事業を進める。	・平成28年度に引き続き基本計画の策定に向けたWSを開催した。オープンスペースを軸として、地域、市民の憩いの場となるよう民間活力による事業をプロポーザル方式で実施することとした。 ・民間事業者による事業の成立性や可能性を広く把握するため、サウンディング型市場調査を実施した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
守谷駅東口市有地利活用方針検討状況（％）	10.00	70.00	85.00	100.00	100.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	今年度は民間事業者が模索する事業内容や利活用形態の概要を把握することができ、利活用基本計画と事業の方向性を決定できたことで、次年度の事業公募に向け進めることができた。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
■ 拡大 □ 縮小 □ 維持 □ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	平成30年度の上期を目標に民間事業者の公募（プロポーザル方式）を実施する。				

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	88	4,320	10,800	400	50,000
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	88	4,320	10,800	400	50,000
正職員人工数（時間数）		0.00	383.00	797.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	1,570	3,268	0	0
トータルコスト		88	5,890	14,068	400	50,000

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		みずき野地内商業施設跡地利活用事業		担当課 企画課
総合計画	政策	快適に暮らせるまち		計画期間 平成28年度～
	施策	調和の取れた市域の形成		種別 任意的事務
	基本事業	計画的な土地利用		市民協働 企画立案への参画
予算科目コード		01-020107-14 単独	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか） 当該土地の利活用計画を定めた上で、プロポーザル方式等により事業者を決定し、地域の活性化に繋がる施設を整備する。 [当該土地の情報] ・所在地：みずき野五丁目3番地1 ・面積：8,403.63㎡
平成20年11月に商業施設が撤退して以降、利活用がなされないままになっている当該土地について、市が購入した上で、地域の活性化に繋がる施設を民間活力により整備していく方向性を平成27年12月の庁議で決定した。	
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
地域の活性化に繋がる施設を民間活力により整備することで、まちに魅力や活気を取り戻し、新たに人を呼び込める循環型のまちづくりを進める。	
（参考）基本事業の目指す姿	
市街化区域の有効な土地利用の促進を図る。 市街化調整区域の無秩序な開発を防ぎ、環境の保全に努める。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
・みずき野地区全体の課題や要望を踏まえ、当該地の利活用を考える必要がある。 ・当該地は地域の活性化や課題解決につながるような利活用を民間活力主導により取り組みたいと考えているが、商業施設撤退後に利活用が進まなかったことを考えると、市場性等を改めて検証する必要がある。	[～平成29年12月] 筑波大学と連携して実施するステークホルダーヒアリングやオープンハウスの結果を踏まえ、みずき野地区の課題や要望解決のうち、当該地が解決に向けて果たすことができる機能を整理する。その上で、サウンディング型市場調査の結果を参考に、利活用方針をまとめる。 [平成30年1月～3月] まとめた利活用方針を地域と共有し、協議しながら、利活用方針を決定させる。
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
・みずき野地区の課題や要望のうち、当該地が解決に向けて果たすことができる機能を整理する。 ・現在実施しているサウンディング型市場調査の結果を踏まえ、地域の課題や要望と重ねることができる部分を詰めていく。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	当該地は民間活力による利活用を想定しているので、市としての財政負担は最小限になる見込みだが、隣接している公民館までを含めた利活用を行う場合は、新たな財政負担が発生すること考えられる。

H28年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H29年度の振り返り）	
H28年度の評価（課題）	H29年度の実績（評価、課題への対応）
早期の利活用開始に向けて、計画的に事業を進めていく。	・筑波大学の協力を受けてステークホルダーヒアリングやオープンハウスを開催し、地域からの意見を整理した。 ・サウンディング型市場調査を実施し、民間事業者による利活用の可能性を探った。 ・これらを踏まえ、平成30年1月に市から利活用方針（案）を提案し、WEBアンケートやオープンハウスにより地域からの意見を集めた。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	目標値（H33）
利活用方針策定の進捗率（％）	0.00	10.00	20.00	70.00	100.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	年度内の利活用方針決定に向けて、計画的に取り組を進めることができた。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
■ 拡大 □ 縮小 □ 維持	□ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	早期の利活用開始に向けて、平成30年度の早い時期にプロポーザルによる事業者公募を開始する。			

コストの推移						
項目		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度見込
事業費	計	0	200,554	8,531	6,089	6,089
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	8,531	6,089	6,089
	一般財源	0	200,554	0	0	0
正職員人工数（時間数）		0.00	56.00	416.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	230	1,706	0	0
トータルコスト		0	200,784	10,237	6,089	6,089